

仕事の教え方講習会の要約

各回 2 時間

回	目 的	強 調 点
第 1 回	<p>適正な生産費で、質のよい製品を生産するのは、監督者の責任である、という事実を確立する。</p> <p>作業員に仕事を、正確に、安全に、良心的にやるように早く覚えさせるための 4 段階を示す。</p>	<p>監督者は、自分の職場の作業員をよく訓練しておかねばならない。</p> <p>言っただけ、聞かせるだけ、やって見せるだけではよい教え方でない。訓練する必要があるときに使って、確実に信頼できる方法がある。</p>
第 2 回	<p>一人の受講者に実演をさせ、それを皆に観察させて、よい教え方の基礎として作業分解が必要であることを強調する。</p> <p>作業分解の作り方を説明し、練習させる。</p>	<p>作業分解は、作業をはっきりと、ステップに分けて教え、重要なコツや急所を強調するために有効である。</p> <p>監督者は、教えるためには道具や材料を用意し、作業場を整備しなければならない。</p>
第 3 回	<p>訓練予定表の作り方を説明する。</p> <p>教え方の実演を二つやらせ、それをカードと比較させて、皆に 4 段階と用意の仕方の使い方を練習させる。</p> <p>教えるための用意を要約する。</p>	<p>よい教え方の基礎は、訓練予定表と作業分解である。</p> <p>見修者にやらせてみる際には、見修者がよく理解したことを確かめる必要がある。</p>
第 4 回	<p>受講者各自の職場の訓練予定表を検討させる。</p> <p>特に工夫を要する教え方、すなわち長い作業、騒音の職場、勘の伝え方について強調する。</p> <p>教え方実演を四つやらせ、皆に 4 段階と用意の使い方を練習させる。</p>	<p>訓練予定表によれば、組織的方法で訓練の計画を立てることができる。</p> <p>厳密な仕事、または困難な状況のもとにおいては、特によい教え方がたいせつである。</p>
第 5 回	<p>教え方実演をやらせ、4 段階と用意の仕方を練習させる。</p> <p>生産は、よい教え方の結晶であることを強調する。</p>	<p>教える技能は、監督者の持たなければならぬ最も重要な道具の一つである。</p> <p>監督者は職場の状況を常に良好に保ち、作業員が楽に仕事のできるように努力しなければならない。</p> <p>このような技能は、監督者が生産に関する問題の発生を防止し、あるいは解決するのに有効である。</p>